

昭和16年12月8日午後零時20分

大日本帝国政府発表

恭しく宣線の大詔を奉載し慈に中外に宣明す。

仰々東亜の安定を確保し、世界平和に貢献するは、帝国不動の国是にして、列国との友誼を敦くし、此の国是の完遂を図るは、帝国が似て国交の要義と為す所なり。

然るに殊に中華民国は、我真意を解せず、徒らに外力を恃んで、帝国に挑戦し来り、支那事變の発生を見るに至りたるが御陵威の下、皇軍の向かふ所敵なく、既に支那は、重要地点悉くわが手に帰し、同憂具眼の土国民政府を更新して帝国は之と善隣の誼を結び、友好列国の国民政府を承認するもの己に十一ヶ国の多きに及び、今や重慶政権は、奥地に残存して無益の抗戦を続けるに過ぎず。

然れども、英米両国は東亜を永久に隷属的地位に置かんとする頑迷な態度を改むる欲せず、百方支那事變の収結を妨害し、さらに蘭印を使噓し、仏印を脅威し、帝国と泰国との親交を裂かむが為、策動至らざるなし。

仍ち帝国と之等南方諸邦との間に共栄の関係を増進せむとする自然的要求を阻害するに寧日なし。

其の状恰も帝国を敵視し帝国に対する計画的攻撃を実施しつつあるものの如く、遂に無道にも、経済断交の拳に出づるに至れり。

凡そ交戦関係在らざる国家間に於ける経済断交は、武力に依る挑戦に比す可き敵対行為にして、それ自体黙過し得ざる所とす。

然も両国は更に与国を誘引して帝国の四辺に武力を増強し、帝国の存立に重大なる脅威を加ふるに至れり事茲に至れり。

帝国政府は、太平洋の平和維持し、以て全人類に戦禍の波及するを防止せむことを顧念し、叙上の如く帝国の存立と東亜の安定とに対する脅威の激甚なるものあるに拘わらず、隠忍自重八ヶ月の久しきに亘、米国との間に外交交渉を重ね、米国と其の背後に在る英国並に此等両国に付和する諸邦の反省を變和求め、帝国の生存と權威との許す限り、互譲の精神を以て事態の的解決に努め、尽くす可きを尽くし、為す可きを為したり、然るに米国は、徒に架空の原則を弄して東亜の明々白々たる現実を認めず、其の物的勢力を恃みて帝国の真の国力を悟らず与国と共に露はに武力の脅威を増大し、以て帝国を屈従し得べすとなす。

遂に米国及英国に対し宣戦の大詔は渙発せられたり。

聖旨を奉体して洵に恐懼感激に耐へず、我等臣民一億鉄石の団結を以て喚起勇躍し、国家の総力を挙げて征戦の事に従ひ、以て東亜の禍根を永久に芟除し聖旨に応へ奉るべきの秋なり。

惟ふに世界万邦をして各々其の処を得しむるの大詔は、炳として日星の如し。

帝国が日滿華三国の提携により、共栄の実を挙げ、進んで東亜興隆の基礎を築かむとするの方針は、固より渝る所なく、又帝国と志向を同じうする独伊両国と盟約して、世界平和の基調を画し、新秩序の建設に邁進するの決意は、益々牢固たるものあり。

而して。今次帝国が南方諸地域に対し、新に行動を起こすの已むを得ざるに至る。

何等其の住民に対し敵意を有するものにあらず。

只英米の暴政を排除して東亜を明朗本然の姿に復し、相携へて共栄の樂を頒たんと冀念するに外ならず。

帝国は之等住民が、我が真意を諒解し、帝国と共に、東亜の新天地に新たなる発足を期すべきを信じて疑はざるものなり。

今や皇国の隆替、東亜の荒廃はこの一挙に懸れり。

全国民は今征戦の淵源と使命とに深く思を致し、苟も驕ることなく、又怠ることなく、克く竭し克く耐へ、以て我等祖先の遺風を顕彰し、難関に逢ふや必ず国家興隆の基を啓きし我等祖先の赫々たる史績を仰ぎ、雄渾深遠なる皇謨の翼賛に万遺憾なきを誓ひ、進んで征戦の目的を完遂し、以て聖慮を永遠に安んじ奉らむことを期せざるべからず。